

2025年12月15日発行 第49号

# 埼耳鼻会報



2025年版 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会埼玉県地方部会 会報第49号 Vol.49  
埼 玉 県 耳 鼻 咽 喉 科 医 会

# 病院紹介

## ●医療法人月うさぎ みやざわ耳鼻咽喉科

### 1. 立地

みやざわ耳鼻咽喉科は、埼玉県春日部市・東武鉄道春日部駅西口から徒歩約3分、駅前のメインストリート「ふじ通り」をまっすぐ進んだ場所にあります。春日部郵便局のすぐ隣という分かりやすい立地に加え、建物裏にはコインパーキングも完備しており、お車での来院にも便利です。

当院の建物は、もともと銀行として使われていたものを医療用に改装していて、奥には往時のままの金庫室の扉が残されており、来院された方々の関心を集める名物のひとつとなっています。天井が高く広々とした開放感のある空間で音の響きもよく、院内で音楽会を開いたこともあります。



医院外観



医院待合室



医院第3診察室奥に残る金庫室の扉



待合室で行われた院内コンサート

### 2. 理念

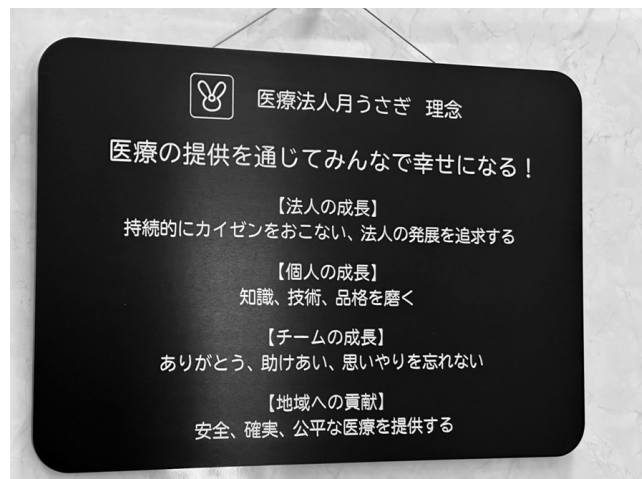
当院の理念は、「医療の提供を通じて、みんなで幸せになる！」です。患者さまはもちろん、スタッフやその家族、関係する業者の方々も含め、当院に関わるすべての人の幸せを願い、日々の診療を行っています。

当院では理念を浸透させるために「朝の会」を実施しています。毎朝、スタッフが交代で「最近あった良かったこと」を理念に結びつけてスピーチし、その後全員で理念を唱和、ハイタッチを交わして一日をスタートさせます。この習慣は、単なる業務連絡の場ではなく、スタッフの一体感と診療への意識を高める大切な時間となっています。

さらに、当院には「ありがとうカード」という制度があります。スタッフ同士が日々の感謝の気持ちをカード



に書いて、小さな感謝を言葉として互いに贈り合っています。月に一度のカンファレンスでは、最も多くの「ありがとうカード」を書いたスタッフを表彰しています。この制度は互いを尊重し合う温かな職場風土の醸成につながっています。



法人理念プレート

### 3. スタッフ

当院のスタッフは、看護師3名、マルチスタッフ12名の構成です。かつては受付・診療介助・事務作業をそれぞれ専属のスタッフが業務に当たる分業制をとっていましたが、急な休み等による業務負担の偏りや業務のムラが課題となっていました。

現在は、看護師以外のすべてのスタッフが受付・診療介助・シュライバー業務をローテーションで担当する「マルチスタッフ制」を採用しています。この制度を導入後、スタッフ皆が常に全体を見ながら助け合って仕事をおこなうようになり、業務全体がスムーズに進むようになりました。さらに、以前は午後9時を超えていた診療終了時間も大幅に短縮されて現在ではほぼ定時に終了するようになり、職場環境の改善とスタッフの負担軽減に大きく貢献しています。

### 4. 診療スタイル

診療は順番予約制を採用しており、来院前にWebで受付を済ませることが可能です。

当院の耳の診察では、永島医科製の手術用顕微鏡「SN-MDⅡ」を使用しています。患者さまには診察ベッドに横になっていただき、顕微鏡を用いて丁寧に診察を行うスタイルです。この診療スタイルは、帝京大学耳鼻

咽喉科学教室で鈴木淳一教授が大切にされていたものであり、鈴木教授の門下生に共通する特徴的な診療スタイルです。この方法によって、新生児から成人、ご高齢の方まで、年齢を問わずすべての患者さまに対し、同じ姿勢・同じ精度で耳の診療を提供することが可能となります。身体の小さなお子さまにも負担が少なく、また耳の奥まで安定して観察できるため、より正確で安全な診察が可能です。

なお、当院では現在整備中の第3診察室にも同型機を導入したいと考えています。しかし、「SN-MDⅡ」はすでに生産終了となっており、入手に苦労しています。

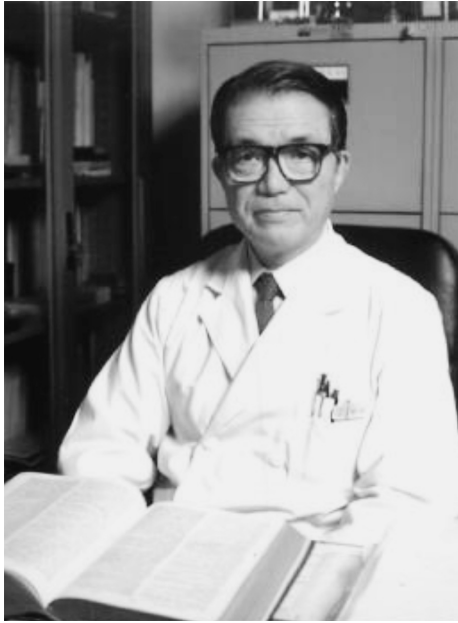
もしも使用していない「SN-MDⅡ」をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お譲りいただけますと幸いです。



耳診察用のベッドと顕微鏡

### 5. 鈴木淳一先生のスケッチ

私は帝京大学医学部耳鼻咽喉科学教室にて、鈴木淳一教授のもとで耳鼻咽喉科学を学びました。鈴木先生は東京大学在学中、絵画部に所属されており、海外の学会などに参加された際には、その土地の風景をスケッチに残されていました。そして、医局員が開業する際には、そのスケッチを記念として贈ってくださいます。私も開業の際、鈴木教授から直筆のスケッチをいただきました。現在、その絵は診察室に飾られています。この絵をいただいたとき、厳しかった鈴木先生から「一人前の医師」として認めていただけたように感じて、その喜びは学位記を授与されたとき以上のものでした。このスケッチの下で診察を行うと、自然と背筋が伸び、初心がよみがえる気がします。



恩師 鈴木淳一先生



レリーフ『月うさぎ』宮田亮平先生作



やなせたかし作『アンパンマン』シルク版画



鈴木淳一先生からいただいた開業記念のスケッチ



永六輔さんからいただいた葉書

## 6. 院内を彩るオブジェ

みやざわ耳鼻咽喉科には、鈴木先生の絵画の他にもいろいろなものが飾られています。

- ・宮田亮平先生（東京芸術大学第9代学長）のレリーフ「月兎」  
一月うさぎ伝説に由来し、自己犠牲と献身の象徴。法人名の元になったものです。
- ・やなせたかし氏のシルク版画「アンパンマン」  
一身を削って飢えた人を助ける正義の姿は月うさぎと重なります。
- ・永六輔さんから届いた葉書

これらはすべて当院の理念に通じるものであり、来院された方々にも「当院の理念」を感じていただける空間づくりに役立っています。

## 7. 休日診療

当院では、年に4回の休日診療を実施しています。この日はふだんシフト制で順番に出勤しているスタッフが全員出勤し、休日診療業務に加えて、院内の清掃や業務改善についての話し合いも行う有意義な時間となっています。また、休日診療の代休はハッピーマンデーや飛び石連休と組み合わせることで大型連休として、スタッフのワークライフバランスにも配慮しています。特に年末の最後の休日診療の終了後は忘年会を開催し、スタッフ

全員で一年をねぎらいます。

この制度を取り入れてから、カンファレンスで休日診療日とその代休の休診日を決める話し合いは、スタッフ皆が盛り上がる楽しいイベントとなりました。

#### 8. 医師について

当院では現在群馬大学名誉教授 古屋信彦先生、自治医科大学さいたま医療センター教授 吉田尚弘先生、元東京医科大学教授 河野淳先生ほか、獨協医科大学、東京北医療センターの先生など、さまざまな医師の先生方にご協力いただいています。そして、当院では現在も常勤・非常勤ともに、診療に参加いただける医師を募集しています。外勤先を探している先生をご存じでしたら、ぜひ当院をご紹介いただけるとうれしいです。

#### 9. 補聴器外来

当院では、毎週火曜日と金曜日に予約制で補聴器外来を実施しています。

春日部市では、2025年7月より「高齢者補聴器購入費補助事業」が開始されました。この制度の対象となるのは、以下の条件をすべて満たす方です。

- ・65歳以上であること
- ・市民税非課税世帯に属していること
- ・両耳の聴力が40dB以上の難聴で、身体障害者手帳の交付対象とならないこと
- ・医師（15条指定医）が補聴器の必要性を認めていること

現在、一般的な耳かけ型補聴器の価格は約15万円前後とされており、医療費控除の対象外となる住民税非課税世帯の方にとっては、補助金を受けてもなお簡単には購入出来ないのが現状です。こうした背景を踏まえ、2025年の日本耳鼻咽喉科学会春季大会において、出展していた補聴器メーカー各社に相談をおこないました。その結果、シバントス社より「高齢者補助制度の対象者に対して、身体障害者総合支援法対応補聴器を支援法対応価格で提供する」ことについて正式な了解を得ることができました。これをうけて、当院が紹介する補聴器販売店と相談した結果、当院の提携している補聴器店では補助制度の対象となる方に対して、支援法対応価格での補聴器提供が可能な体制が整いました。

今後、この取り組みが市内の他の耳鼻咽喉科や補聴器専門店、さらには県全体へと広がっていくことを願っております。

おしまいに

診療は医師だけでは成り立ちません。患者さん、スタッフ、医師の三者がそれぞれの役割を果たし、信頼し支え合うことで、よりよい医療が生まれると考えています。みやざわ耳鼻咽喉科は、そんな医療を実現するために日々カイゼンを重ね、この医院に関わるすべての人が幸せになれる場所を目指しています。

私たちは、ここを単なる診療の場ではなく、「医療の提供を通じてみんなで幸せになる」場所として、患者さんが安心し、スタッフが誇りを持って働き、地域とともに成長できる診療所であり続けたいと願っています。

（院長 宮澤哲夫）